

里仁第四

子曰、唯仁者、能好人、能恶人。

し わ ただじんしや よ ひと よみ よ ひと にく  
 子曰わく、唯仁者のみ能く人を好し、能く人を悪む。 (4-69)

<子曰わく、唯仁者のみ能く人を好し、能く人を悪む>

Q:「子曰わく、唯だ仁者のみ能く人を好し、能く人を悪む」とは何ですか。

A: (1)「孔子が言った。ただ仁者(人間愛をもつ者)だけが、公平に人を愛することもできれば、公平に人を憎むこともできる」の意。

(2)「ひとり仁者だけがその心が公平無私だから、好むべき人を好み、悪むべき人を悪むことができるものだ」の意。

(3)憎愛の念は何人にもある。小人は私心があるために、その憎愛の情の現れに偏<sup>かたよ</sup>ったものがある。仁徳に徹した人は心が明鏡の如くであるから、善悪を見誤ることもないし、好むべき善を好み、悪むべき悪を悪む。悪むといっても人を悪むのではなく、その悪を悪むのである。

里仁第四

子曰、苟志於仁矣、無惡也。

し わ いやし じん こころざ あ しきこと な  
 子曰わく、苟くも仁に志せば、悪しきこと無し。 (4-70)

<子曰わく、苟くも仁に志せば、悪しきこと無し>

Q:「子曰わく、苟くも仁に志せば、悪しきこと無し」とは何ですか。

A: (1)「孔子が言った。仮りに、仁(人間愛)を心に持つことを志したなら、その人においてすべての悪はなくなるだろう」の意。

(2)「ほんとうに仁にさえ志しておれば、悪の芽生える憂いはない」の意。

(3)「ほんとうに真剣になって仁に志しておれば、たとえ不用意の過ちはあっても、みずから悪をしようとする芽生えはおきない」

(4)「苟」は「イヤシクモ」と読んで、「かりそめ」の意。「マコトニ」と読み、「誠」の意に解することも。

(5)「志」とは心の行くところ。

(6)「無悪」は、「悪しきことなし」と読む。